

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

- (1) 本大会に適用する規則は、2025 年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会規定である。
- (2) WAの競技規則 TR 6 の改正と新たに「競技用靴に関する規程」が導入されたことに基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。

【競技用靴・靴底の厚さに関する規定(TR5. 2)】

【競技用靴・靴底厚さ表】

種 目	靴底最大の厚さ	要 件 ・ 備 考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。(前足の中心は、靴の内部の 75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12%にある靴の中心点)。
道路競技	40mm	

*その他詳細、WA承認靴リストについては、<https://certcheck.worldathletics.org/>を事前に参照すること。

(3) イエローカード（以下、YC）について

- ①WA競技規則CR18.5 の規定により、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、54.7.6、54.10.8、55.8.8 に違反があった競技者やリレーチームにYCを提示し警告を与える。この場合他の種目との合算は無く、種目ごとに累積し、種目ごとにリセットする。
- ②同一種目で2回のYCの提示を受けた競技者は、当該種目を失格とする。ただし、それ以後の他の種目の出場は可能である。

2. 招集について

(1) 招集所は、メインスタンド下の雨天走路に設ける。

(2) 手順

- ①招集開始時刻に競技者係の点呼を受ける。トラック種目出場者は、腰ナンバーを右腰のやや後方につけておくこと。招集時には、アスリートビブス（各自の登録番号）と競技に使用するシューズの確認を受ける。競歩競技においては別アスリートビブスを使用することがあるが、その際は、招集時に自分のアスリートビブスを競技者係に示し、別アスリートビブスを受け取ること。
- ②点呼の代理は認めない。ただし、2種目以上にわたって出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに本人が京都府高体連陸上競技専門部HP上にある「2種目同時出場届」に必要事項を記入し、競技者係に提出すること。提出後は第1種目の招集時にその旨を競技者係に告げ、招集を受けることができない種目の点呼（アスリートビブス・腰ナンバー・シューズ）を同時に受けておくこと。その場合に限り、招集時刻の点呼に代理人を認める。また、競技については本人がフィールド審判に申し出て、トラックの方を先に行うこと。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は出場する意志がないものとみなし処理する。
- (4) 招集完了時刻は下記の通りとする。なお、種目別の招集開始時刻・完了時刻については、プログラムの競技日程欄に記載されている。

種目	予選		準決勝		決勝	
	開始時刻	完了時刻	開始時刻	完了時刻	開始時刻	完了時刻
トラック	30 分前	20 分前	25 分前	15 分前	25 分前	15 分前
フィールド	50 分前	40 分前			50 分前	40 分前
棒高跳					90 分前	80 分前

(5) リレー種目

- ①リレー種目のオーダー用紙は、受付時に手渡しする。リレーメンバー以外から起用する場合は、必要事項を忘れずに記入すること。オーダー用紙は、予選、準決勝、決勝ともに第1組の招集完了時刻の60分前までに競技者係（招集所）に提出すること。ただし、女子4×100mR 準決勝は15時40分、男子4×100mR 準決勝は16時までとする。提出がない場合は、出場する意志がないものとみなし処理する。（オーダー用紙は予選・準決・決勝ともに受付横の配布係より手渡しする。）
 - ②出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(2)の②に準ずる。
 - ③オーダー用紙提出後の選手変更は認めない。ただし、怪我等の急なアクシデントにより、メンバーの出場ができない場合のみ、本部が指定した医務員の判断によって、変更が認められることがある。
- (6) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに京都府高体連陸上競技専門部HP上にある「欠場届」に必要事項を記入し、競技者係に提出すること。

(7) 混成競技

- ①第1日目、第2日目ともに第1種目については招集所で競技者係の点呼を受ける。第1日目、第2日目ともに2種目以降については、現地で混成競技係の点呼を受ける。ただし、最終種目については招集所で競技者係の点呼を受ける。
- ②招集時刻については、プログラムの競技日程欄に記載されている通りである。（第2種目以降、現地での点呼は、完了時刻をトラック15分前、フィールド30分前とする。）

3. 競技進行について

(1) 番組編成およびラウンドの通過について

- ①トラック競技のレーン順、およびフィールド競技の試技順は、全てプログラム記載のとおりとする。準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、アスリートランキング.com 及び大型映像で発表する。
- ②トラック競技において、次のラウンドへの出場者を決める時は以下の方法で行う。

(ア) $+\alpha$ を決めるとき、その最下位で同タイム者(1/100 秒)が出た場合は、写真を拡大して1/1000 秒単位で優劣の判定をする。

 - ・レーンに余裕がある場合・・・同タイム (1/1000 秒単位) の選手の進出を認める。
 - ・レーンに余裕がない場合・・・本人または代理人により抽選する。

(イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、 $+\alpha$ での進出者数を減らす。

(ウ) 800mとオープン・レーンを使用する種目
同タイム (1/1000 秒単位) の選手は全員次のラウンドに進める。

(2) 競技について

- ①スパイク及びシューズについては規定に適合すること。スパイクのピンの長さは9mm 以内とする。ただし、走高跳・やり投については12mm 以内とする。いずれの場合も本数は11 本以内とする。
- ②アスリートビブスは指定された大きさでユニフォームの胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は、胸部または背部だけでよい。
- ③混成競技の最終種目では、男子は第7種目、女子は第6種目終了時点の合計得点による順位をあらわす別ナンバーを胸につけて競技を行う。背は競技者個人のアスリートビブスで、腰はレーンナンバーとする。
- ④男子5000m、女子3000m はグルーブスタートで行う。
- ⑤トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走ること。

- ⑥フィールド競技において、コーチの競技者に対する助言が競技の進行を妨げないようにするため、近接の観客席等に「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべてコーチ席で行うこと。
- ⑦競技区域内（招集所内含む）に携帯電話・スマートフォン・タブレット等のデバイス機器を持ち込むことはできない。また、競技区域内で助力を与えたり受けたりしている競技者は、失格の対象となる。ただし、フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像を見るために、コーチ席から録画再生機器等を手にとり、その付近で操作する場合に限り、競技区域に持ち込むことは認める。なお、メインスタンドにおいて受け渡しをする場合は、指定されたエリアで指定された吊り下げ袋を使用した場合のみ認める。その際、事故等が起こらないように安全面には十分に配慮すること。また、事故等が起こった場合、主催者は責任を負わない。
- ⑧競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。
- ⑨招集所からスタート地点、跳躍場、投てき場へ行く場合、競技者係の指示に従うこと。
- ⑩リレー競技に出場するチームは、同一ユニフォームで参加しなければならない。（形状を統一する必要はないが、デザイン・配色は統一すること。）
- ⑪競技運営上の理由により、以下の種目において下記のタイムを超えて周回を残している場合は、フィニッシュ地点で競技を中止させることがある。その際、審判長により競技を打ち切る。

男子 5000m 競歩；30 分 00 秒、女子 5000m 競歩；35 分 00 秒

(3) 跳躍種目の予選通過標準記録は、下記の通りとする。

種 目	走幅跳	三段跳	三段跳の踏切板の砂場からの距離
男 子	6 m 5 5 c m	1 3 m 2 0 c m	男子 予選：1 1 m 決勝：1 3 m
女 子	5 m 1 0 c m		女子 決勝：1 0 m

*予選が実施されるフィールド競技において、予選通過標準記録を超えた競技者が 12 名に満たなかった場合は、上位 12 名まで決勝に進出させる。なお、12 番目に同じ記録の競技者がいた場合は、同記録となった競技者の 2 番目の記録で順位を決める。それでも決められない時は 3 番目の記録で決める。3 番目の記録でも決まらない時は、複数名が決勝に進出できる。

(4) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。（ ）内は公式練習の高さである。

男子走高跳	決勝	(165) 170 175 180 185 188 191 以後 3 cm ずつ上げる (188) () 選手の実力に応じて追加することがある
女子走高跳	決勝	(140) 145 150 153 156 159 162 以後 3 cm ずつ上げる (155) () 選手の実力に応じて追加することがある
男子棒高跳	決勝	(330) 340 350 360 370 ～480 10cm ずつ上げる、480～ 以後 5 cm ずつ上げる (410) () 選手の実力に応じて追加することがある
女子棒高跳	決勝	(180) 200 220 240 250 ～360 10cm ずつ上げる、360～ 以後 5 cm ずつ上げる (250) () 選手の実力に応じて追加することがある
八種競技走高跳		140 145 150 155 160 163 166 以後 3 cm ずつ上げる 公式練習の高さ及び開始する高さについては、審判長判断により変更することがある
七種競技走高跳		120 125 130 135 140 143 146 以後 3 cm ずつ上げる 公式練習の高さ及び開始する高さについては、審判長判断により変更することがある

*同記録による 1 位決定と近畿大会出場権決定のバーの上げ下げは、走高跳 2 cm、棒高跳 5 cm とする。

*開始するバーの高さ等に関して、荒天時などの場合、危険回避のために審判長判断で変更することがある。

(5) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

【単独種目】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上*	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技**	2分	3分	2分

【混成競技】

残っている競技者数	走高跳	その他
4人以上*	1分	1分
2～3人	1分30秒	1分
1人	2分	—
連続試技**	2分	2分

* 4人以上または各競技者の最初の試技

** 単独種目・混成競技ともに、残っている競技者数に関係なく適用し 走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

4. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己のものを使用してもよい。なお、やりの検査は競技開始時刻の90分～60分前までとし、100m スタート側の倉庫前で行う。以前の検査シールは剥がして持参すること。（日本陸連の検定シールは剥がさない。）

5. 抗議について

抗議は日本陸上競技連盟規則により、所定の手続きをとるものとする。

6. 表彰について

学校対抗の表彰は総合6位、部門（トラック・フィールド）3位まで行う。なお、各種目は6位までの選手を表彰する。成績発表後5分以内に学校ジャージで本部席前に集合すること。出席できない場合は代理人を立てること。

7. その他

- (1) 顧問及び引率責任者(代理)の出席（審判）なき場合は、選手の出場は認めない。なお、競技役員受付を必ず通過すること。
- (2) ウォーミングアップは、補助競技場(サブ・グラウンド)で行うこと。ただし、投てきの練習は、招集完了後、役員の指示により競技場内で行うので補助競技場での投てき練習は一切行わないこと。
- (3) 応援はスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わないこと。また、集団での連呼応援は自粛すること。（特にトラック競技のスタート直前は注意すること。）また、円滑な競技会運営のため、コーチ席並びに報道エリアを、観戦や応援のためのスペースよりも優先して設置する。
- (4) 更衣室の使用は更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物を置いてはならない。
- (5) 競技中に起こった怪我については、本部の医務室で応急処置のみ行う。
- (6) スタンド等で使用した場所は、各校で責任をもって清掃し、ゴミはすべて持ち帰ること。
- (7) フィニッシュ後のスタート地点への移動等は、必ず競技場の外側通路を使用すること。通行禁止や使用禁止の表示がある

場合は、厳守すること。

- (8) 本部席前は通行を禁止する。許可された者（補助員）以外は通らないこと。また、審判長、総務、アナウンサー前での助言は競技会運営に支障を来たため行わないこと。
- (9) メインスタンドのロイヤルボックス席並びに記者席には立ち入らないこと。
- (10) 各校待機場所はスタンド（メイン、バック、サイド）のみとする。ただし、メインスタンドについてはテントの設置は禁止する。また、旗・横断幕の貼り付けについては中段通路より上とする。
- (11) スタンド等における各校待機場所やロープ等がトイレ前や通路、階段、バリアフリー経路の出入口等をふさぐことのないようにすること。
- (12) 公園内・サブトラックでは、メディシンボール、チューブ等の使用を禁止する。トラック上に競技場備え付けの用具以外のものを設置してはいけない。
- (13) 盗撮行為等を防止するために、各校に撮影許可証が配布されているので、関係者の撮影の際には必ず撮影許可書を着けること。
- (14) 競技場等の入場については、各校の待機場所確保のため、一般開放をする前に各校の代表者を優先して抽選順に入場させ、確保させる。その際、各校確保している場所を分かりやすく示し、必要以上に確保しないように配慮すること。
- (15) 競技場周辺でのテント設営は、各校事前に協議して決定している場所を使用することとし、7:00 より早く来ての場所取りはしないこと。
- (16) 忘れ物等の大会中に拾得した物は10日を目途に処分するので、紛失したものがあれば必ず要項記載の大会担当者まで連絡すること。
- (17) 本大会6位までの入賞者（競歩は5位まで、混成競技・女子三段跳・女子棒高跳・女子ハンマー投は4位まで）は、全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会の出場参加資格を得る。近畿地区予選会出場者の決定については、全国大会出場者決定の申し合わせに準ずる。
- (18) 近畿地区予選会の申し込みに関する一切の書類は、第3日目の大会終了後、必要事項を記入して直ちに提出すること。
また出場認知書は、令和7年6月9日（月）までに下記へ送付すること。

送付先 〒617-0006 向日市上植野町西大田 京都府立向陽高等学校内 桃井 徹 先生 宛